

牧師所感： 戦争ごっこを楽しむ指導者達

ー ロシア・ウクライナ、イスラエル・ハマス ー

ロシアがウクライナを侵犯して戦争になって早や1000日が経過した。未だに終結せず、火に油を注ぐような悲惨な戦争がイスラエルとアラブのハマスの間で勃発した。しかるにロシアとウクライナの戦争で夥しい軍人と民間人が犠牲になった。ところがイスラエルとハマスの戦争においても、軍人だけでなく、夥しい民間人、特に子どもの犠牲が甚だしい。これらの報道で知られるたびに、胸がちぎれるような痛みを覚える。それなのに御遺族の方達は……。

さて、机の整理から目に留まったのは、朝日新聞の「天声人語」のコラムの記事のスクラップだ。筆者は名優の森繁久弥氏が好きだった。当の御人が「天声人語」欄に発表されているのでスクラップしていたものだ。偶然にも戦争の悲惨さを紹介する記事だった。

朝日新聞 「天声人語」

2024・8・15

名優として知られた森繁久弥さんは戦中、旧満州の新京放送局に勤めていた。日本の敗色が濃くなったころ、関東軍の極秘の命令で、特攻隊員の遺言を残す仕事をしたそうだ。ポロポロと涙を落としながら、60人ほどの若者たちの勇壮な言葉を録音したという▼「青い海の底で」と題する一文に、森繁さんは記している。そのなかにひとり、おそらく永久に忘れられない隊員がいたと。長い沈黙があつたのち、^{はくせき}白晳の若者はマイクに向かって、重い口を開いたそうだ▼お父さん。いま僕はなぜだか、お父さんと一緒にドジョウをとり^とにいったときの思い出だけで頭がいっぱいなんです。何年生だったかな。おぼえてますか。弟と3人でした。鉢山の裏の川でした。20年も生きてきて、いま最後に、こんな、ドジョウのことしか頭に浮かんでこないなんて……▼ポツンと言葉がとぎれてから、若者は言った。「何だかもの凄く怖いんです」。ハッと胸を刺されるような響きがその声にはこもっていた。「僕は卑怯かも知れませんが…ね…お父さんだけに僕の気持を解ってもらいたいです…だ」▼あの戦争で、多くの人が死んだ。敵も味方も。兵士も民間人も。女も男も。なぜ彼らは、彼女らは、死ななければならなかったのか。それは避けられなかったのか。誰のせい。何のためか▼どこかの青い海の底で、あの若者はいまも、死の恐怖に魂をおののかせている気がしてならない。森繁さんはそう書いた。きょうは、79年目の8月15日である。

ここに紹介して、戦争が一日も早く終るようにと祈っていただきたいと思うのである。終りに筆者は戦争の終結の為に教会員一同と共に、心を尽くして祈っている。だがテレビで見る強国の戦争指導者達は、この悲惨な戦争を「戦争ごっこ」のように思っているのではないかと訝る。

神よ、この悲惨な戦争を早く終らせて下さい。アーメン！